

名古屋市次期総合計画有識者懇談会（平成30年12月19日開催）

主なテーマ：子ども・若者の応援、子育て支援 会議概要

- 施策11の柱「安心して子どもを生み、親として成長することへの支援」に「妊娠期からの相談支援体制の充実」とあるが、妊娠する前の準備の段階、あるいは不安を抱えている段階からの相談体制の支援も重要である。
- 施策11の柱「子育ての負担感・孤立感の軽減」では、名古屋市に多い在宅で子育てしている方々にも配慮した取り組みも必要ではないか。
- 保育園について、量的に充足されたのであれば、質的に改善していくことが次の目標となってしまうべきである。
- 施策11か14に「幼児教育」に関することを入れるべきである。保育園の利用が特に男児の問題行動を抑制することや、幼稚園を利用することがその後の学力を向上させるといった知見があり、幼児教育を充実させることが教育投資を最も向上させることとなる。
- 現状の子育て支援は、保育所をつくることだが、単に「預けられればよい」だけでなく、より良い子ども期の生活といったものを保護者に伝えていくためのエビデンスが必要ではないかと考えている。異年齢の子どもや、家族以外の異世代の方々と接点を持つことで子どもの自己肯定感を高めるといった調査結果もある。
- 名古屋版キャリア教育など、子どもたちの多様な生き方を支えていく教育の柱をつくっていくという方向性は全面的に賛成だが、施策12の柱「子ども・親総合支援」の文章はわかりにくい。
- 多様な能力を持ち、多様な生き方をする子どもたち、そしていろいろな悩みを抱え、苦しんでいる子どもたちを、社会全体で受けとめるための大人の力量の向上も一つの課題であり、ここに何を盛り込んでいくのかについては、しっかりと概念的な整理をしていく必要がある。
- 子ども・親を総合的に支援していくためには、気軽に相談できる機能が重要であり、早め早めに、切れ目なく支援していくためにも、関係する局の横断的な流れや、療育センターや児童相談所が関わっていくことも必要である。
- 施策12の柱「困難を抱える子ども・家庭への支援」について、国は里親委託率の目標値を75%としているが、単に里親に委託するだけではなく、しっかりとフォスターリング機能を強化していくことが重要である。
- 障害児や発達に遅れのあるお子さんの相談をしたいと思っても、何か月待ちということが話題になっており、療育センターの機能拡充が必要である。
- 子ども応援委員会ではスクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーを採用しているがいずれも任期付きの雇用である。国も方針の中で専門職の積極的な活

用を言っており、新たな国家資格である公認心理師も含め、名古屋市に専門職の職員として採用してほしい。

- 子どもや子育ての施策にも「多様性」といった言葉があるとよい。外国のことだけではないが、様々な背景のある、子育てに困難がある方というところに入れていただけるとよい。
- 里親制度については、家庭的な養育環境として里親委託が適切であるという意見がある一方で、過度に信奉し過ぎると、家庭のマイナスの影響を見落としてしまうという意見もある。国は高い目標を掲げており、その達成をめざす必要もあるが、慎重に里親委託を進める必要がある。現状の具体的な目標値がない表現がいい。
- 施策12の現状に「今の生活に満足していない子どもが多くいる」とあり、成果指標に「今の生活に満足している子どもの割合」とある。この指標は刹那主義的なニュアンスにも読めてしまうため、「満足」ではなく「充実」としてはどうか。
- 施策12の成果指標「地域における奉仕的活動や自主的な活動などに参加したことのあ
る子どもの割合」は非常に大事であるが、「奉仕的活動」の単語が指標で突然出てくるのでわかりにくい。
- なごや子ども条例など子どもの権利に関して文章化してあり非常によい。憲法問題がクローズアップされるようになってから子どもたちの生きる権利が前面に押し出され、児童福祉法の改正で「子どもの権利」という言葉が書かれるようになったが、まだまだ日本では浸透が弱いと感じている。
- 施策13の成果指標として、いじめや不登校の客観指標があった方がよい。ただし、単純に不登校者数などを掲げるのではなく、そういった子どもたちに適切なケアやサポートがなされているかが問われるべきである。
- 今の学校教育の性教育は不十分である。自分の体を大切にす、友達の体を大切にす
るという考え方から、性に関することをきちんと子どもや若者たちに教えていくこと
は非常に重要なことである。
- 施策14の指標に「運動することが好きな子どもの割合」とあるが、小さいうちからス
ポーツをすることは、障害につながりかねないため、子どものうちは体を十分に伸び
伸びと使った遊びをすることが好きというニュアンスに変えたほうがよい。
- 魅力ある高校づくりということで、光っている市立高校をさらに伸ばしていくことを
忘れずにしっかりやっていただきたい。
- 施策15の「若い世代が学び育ち、活躍できるまちをつくります」は、まさにそのとお
りであるが、若い世代が交流する場所が名古屋は少なく、非常に問題だと感じる。大
学の垣根を超えて若者同士が交流できる場所があるとよい。
- 施策15の「ニートやひきこもりにある若者」を支援していくとは今まさに重要なこと
だが、この先5年・10年後を考えると、AI等の技術革新に伴って、現在の事務職や単

純労働は機械にとって替わり、そこに適応できない若者が相当数出てくることが予想される。特に名古屋のようなものづくりの地域では、そういった仕事の変化が急激に訪れることになるため、どういった施策を準備していくかを考えておく必要がある。

- 施策15の成果指標「市内における大学・短期大学の学生数」は、名古屋市だけで学生数をチェックしても、あまり生産的ではない。圏域全体として学生数を確保していく視点の方がよい。
- 施策24の指標に「親しみのある公園があると思う市民の割合」とある。最近ではボール遊びの禁止や自転車走行の禁止など、山のような禁止項目を看板にしている公園も見受けられるが、子どもがしっかり遊べる公園が増えるとよい。
- 施策28はバリアフリーのことが書かれているが、「合理的配慮」という単語が出てこないことに違和感を覚えるので、どこかに入ると良いのではないか。
- 名古屋市の出生率が2万人程度で推移している背景として、地域の企業が元気で、雇用が安定していることが考えられる。中小企業には、正社員の求人を出しても応募がこないといった課題があり、企業と学生を上手にマッチングしていくことが、この地域の産業を育成支援していくには必要である。
- 施策42にも、障害をお持ちの方も含めた市民サービスの向上といった趣旨では「合理的配慮」の単語が必要ではないか。
- 施策44の地域コミュニティは、防災や地域包括ケア、子育てなど総合計画の重要な柱になってくるため、いかに再生して強化していくのかは大きな課題である。今後、多様な社会経験をした人たちがリタイアして地域に帰ってくる。こうした方々は、今後の地域を支える人材であるとともに、これから第二の人生が始まるので、いかに地域で活躍してもらおうのか、仕掛けづくりと、その人たちをしっかりと育てていくことを意識的にやっていただきたい。